



小島友実の あの馬の STORY

ミルノワール

宗像調教師と青柳調教厩務員に囲まれて。ご機嫌のミルノワール嬢

お母さんが所属していた厩舎に子供が入厩。どうのはまくあるハーブでありますよ。宗像義忠厩舎のミルノワールちゃんで、母のミルシヤイナーは宗像厩舎に所属し、デビュー戦で勝ち上がった素質馬でした。宗像調教師にこづみミルシヤイナーはひと品象に残つていふ馬だといふわ。

「東京競馬場のトライー戦が2着。2戦目も東京で、鮮やかに勝ち上がりつれました。ミルシヤイナーはフジキセキの半妹で、血統的にも期待が大きかったのですが、脚に弱い所があり、初勝利後に脚部不安を発症。引退を余儀なくされたしおれたたどり。ひとも残念でしたね」

ミルシヤイナーが母となり、初めて産んだ子がミルノワールです。

「この馬を初めて見たのは一歳の春位でしたね。青鹿毛の真い黒馬で、母もけいの黒い馬だったから、似てつるなど思いましたよ。育成では前向きな走りを見せて、全身を使って進むといふのを褒め、評価も高かつたと聞いています。ただ、生まれが4月末の遅生まれで、馬体がそんなに大きくなかったひつのもあり、負荷をかけないと、飼葉を食べなくなつてしまつたのです。

供が入厩じつのはまくあるハーブでありますよ。宗像義忠厩舎のミルノワールちゃんで、母のミルシヤイナーは宗像厩舎に所属し、デビュー戦で勝ち上がった素質馬でした。宗像調教師にこづみミルシヤイナーはひと品象に残つていふ馬だといふわ。

「東京競馬場のトライー戦が2着。2戦目も東京で、鮮やかに勝ち上がりつれました。ミルシヤイナーはフジキセキの半妹で、血統的にも期待が大きかったのですが、脚に弱い所があり、初勝利後に脚部不安を発症。引退を余儀なくされたしおれたたどり。ひとも残念でしたね」

ミルノワールは、数ヶ月は体調や成長を見ながら、調整が進められました。そして、1月頃には再度、乗り込みが始まり、3月下旬に美浦トレセンへ入厩しました。ミルノワールが良くゲート試験も一度で受かりました。しかし、騎手を背に乗り始めると、やはりまだ体力と成長が未能な点が見られたため、放牧。11月下旬に帰厩し、12月21日、中山の芝1600メートルで初戦を迎えた。

「ア番手前後でレースを進め、3コーナー過ぎから少しポンポンワクを上げていきましたが直線はあまり反応があつまませんでした。乗つてた田中勝春騎手は一着後、「途中でワーサイフを出したらい反応してくれたもののヒツバはあつた。ただ心が入らなかった感じですね。青鹿毛の真い黒馬で、母もけいの黒い馬だったから、似てつるなど思いましたよ。育成では前向きな走りを見せて、全身を使って進むといふのを褒め、評価も高かつたと聞いています。ただ、生まれが4月末の遅生まれで、馬体がそんなに大きくなかったひつのもあり、負荷をかけないと、飼葉を食べなくなつてしまつたのです。

「見た田が派手でしょ（笑）。僕も最初に見た時、綺麗な馬だなと思いました。馬房では大人しいですが、外に出ると敏感な所があります。その辺はやはり女性の手ですね。放牧から帰ってきてからは、餌葉も十分食べるようになりました。まだ体力と成長が未能な点が見えていたので、能力を出していくのが楽しみです。乗つた感触は背中が柔らかくて、走つた感じを感じさせます。だから乗るな」としておきます。

「見つけた担当の青柳敬調教厩務員も期待を寄せています。今後につけていたのですが直線はあまり反応があつまませんでした。乗つてた田中勝春騎手は一着後、「途中でワーサイフを出したらい反応してくれたもののヒツバはあつた。ただ心が入らなかった感じですね。青鹿毛の真い黒馬で、母もけいの黒い馬だったから、似てつるなど思いましたよ。育成では前向きな走りを見せて、全身を使って進むといふのを褒め、評価も高かつたと聞いています。ただ、生まれが4月末の遅生まれで、馬体がそんなに大きくなかったひつのもあり、負荷をかけないと、飼葉を食べなくなつてしまつたのです。

「見た田が派手でしょ（笑）。僕も最初に見た時、綺麗な馬だなと思いました。馬房では大人しいですが、外に出ると敏感な所があります。その辺はやはり女性の手ですね。放牧から帰ってきてからは、餌葉も十分食べるようになりました。まだ体力と成長が未能な点が見えていたので、能力を出していくのが楽しみです。乗つた感触は背中が柔らかくて、走つた感じを感じさせます。だから乗るな」としておきます。

「見つけた担当の青柳敬調教厩務員も期待を寄せています。今後につけていたのですが直線はあまり反応があつまませんでした。乗つてた田中勝春騎手は一着後、「途中でワーサイフを出したらい反応してくれたもののヒツバはあつた。ただ心が入らなかった感じですね。青鹿毛の真い黒馬で、母もけいの黒い馬だったから、似てつるなど思いましたよ。育成では前向きな走りを見せて、全身を使って進むといふのを褒め、評価も高かつたと聞いています。ただ、生まれが4月末の遅生まれで、馬体がそんなに大きくなかったひつのもあり、負荷をかけないと、飼葉を食べなくなつてしまつたのです。

「見た田が派手でしょ（笑）。僕も最初に見た時、綺麗な馬だなと思いました。馬房では大人しいですが、外に出ると敏感な所があります。その辺はやはり女性の手ですね。放牧から帰ってきてからは、餌葉も十分食べるようになりました。まだ体力と成長が未能な点が見えていたので、能力を出していくのが楽しみです。乗つた感触は背中が柔らかくて、走つた感じを感じさせます。だから乗るな」としておきます。

「見つけた担当の青柳敬調教厩務員も期待を寄せています。今後につけていたのですが直線はあまり反応があつまませんでした。乗つてた田中勝春騎手は一着後、「途中でワーサイフを出したらい反応してくれたもののヒツバはあつた。ただ心が入らなかった感じですね。青鹿毛の真い黒馬で、母もけいの黒い馬だったから、似てつるなど思いましたよ。育成では前向きな走りを見せて、全身を使って進むといふのを褒め、評価も高かつたと聞いています。ただ、生まれが4月末の遅生まれで、馬体がそんなに大きくなかったひつのもあり、負荷をかけないと、飼葉を食べなくなつてしまつたのです。

「見た田が派手でしょ（笑）。僕も最初に見た時、綺麗な馬だなと思いました。馬房では大人しいですが、外に出ると敏感な所があります。その辺はやはり女性の手ですね。放牧から帰ってきてからは、餌葉も十分食べるようになりました。まだ体力と成長が未能な点が見えていたので、能力を出していくのが楽しみです。乗つた感触は背中が柔らかくて、走つた感じを感じさせます。だから乗るな」としておきます。

グリーンチャンネル「トラックマンTV」（毎週金曜19:00～20:30）、ラジオNIKKI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。

profile